



碧高祭

文化部門 9月1日(火)
体育部門 9月2日(水)
応援合戦 9月3日(木)

9月1日～3日、碧高祭が行われました。文化部門では、クラス発表、映像発表、文化部展示をローテーションで楽しみました。体育部門では、全力で競技に参加する碧高生の姿がありました。3日目となった応援合戦では、どの回も練習の成果を発揮し、生徒から大きな拍手が送られていました。例年の碧高祭とは大きく変わってしまいましたが、変わらなかった碧高祭へのエネルギーが、皆さんの大切な財産になることを願っています。

校長コラム 第7回 「疎にして密なる学校生活」 校長 伊豫田祥子

今夏(南半球は冬です)特筆すべき事柄として、あなたは何を挙げますか。新型コロナウイルス感染症の世界的広がり、高温、豪雨災害。人災として私は、インド洋で日本の船会社のタンカーが起こした座礁事故を挙げます。インド洋では美しい自然が油のために壊れつつあります。ここにはマングローブ林が発達し、サンゴ礁を住処に多種多様な生物が暮らし、漁業や観光業で人々が暮らしを立てていたのです。ルールにより日本の会社は補償金を支払うのですが、美しい景観も生き物も人々の暮らしも元には戻りません。対応し、手当てしても取り戻せない物や事があるのです。

◇
来年こそはオリンピック・パラリンピック開催をしたい、来年は去年までのような体育大会と文化祭をやりたいという声を聞きます。新型感染症の患者が少なくなれば社会も学校も元に戻るのでしょうか、戻るのが今後すべきことなのでしょうか。新型感染症に対応するためにやむを得ずしたことが実は新しい時代の幕開けだったと20年後に気づくかもしれません。

今の感染症には3密防止と手洗い・マスク着用などの咳エチケットが効果的だと言われています。学校は、密集して密接するから得られるものが多いのにどうしたらよいのでしょうか。あなたはこれからの学校にどんなことを期待しますか。「疎」と「密」を入れて短文を作ってみましょう。

あなたの短文 []
応用例 学校は人が多くいて密だから危険だけれど心通わず親密な人間関係があるから安心

◇
碧南高校では8月31日から教育実習が始まりました。9月1日から碧高祭を実施しました。いずれも感染拡大予防に努め、自己点検や分散をポイントにしました。どれほど気を付けても本番を迎えられないかもしれない、中断となる恐れもある、しかし、準備しなければ何事も始まらない、学校中で悩みながら進めました。

大学入試制度は昨秋から予定変更が繰り返されて混乱しています。就職活動は時期が1か月遅れとなりましたが、まずは就職希望者の受験先が決まりました。卒業生や事業所のおかげです。今は一人一人が成長途中の自分の不完全さを受け入れながら努力を続ける辛抱のときです。中学生の皆さんにも落ち着いて目標を設定し取り組まれることを期待します。

碧高生 活動紹介 碧高祭を終えて ~各分団長のことば~

赤誠分団長 | 横山 海斗 (碧南市立東中)
僕は分団長になりましたが、最初は不安だらけでした。高校に入ってから人前に立つ機会があまりなく、団の皆をうまくまとめるのか、皆は僕についてきてくれるのか、とても不安でした。練習が始まると、上手く指示が出せない僕でしたが、みんなはしっかり聞いて、すばやく行動してくれました。そのおかげで練習も順調に進み、本番では最高にかっこいい応援をすることができました。応援優勝はとれませんでした。総合優勝をとることができました。碧高祭を通して、皆の優しさや一生懸命さ、また、今まで知らなかった人のことも知ることができ、赤誠分団がもっと大好きになりました。こんなに最高で、大好きな赤誠の分団長をやることができ、とても幸せでした。

白虎分団長 | 黒田 陸斗 (碧南市立南中)
今年はコロナの関係で例年とは違うことが多く、少し不安がありました。しかし、先生方や団のメンバー、各団の団長たちと話し合い、解決策を考えたりして、今まで以上の碧高祭をつくり上げられたと思っています。多くの人に助けられ、色々なことを学ぶことができました。白虎分団は、賞をとることはできなかったけれど、どの回よりもメンバー同士の仲を深めることができたと思います。白虎のみんな本当にありがとう！

青陵分団長 | 武山 哲大 (高浜市立南中)
「青陵分団は弱い」と周りから言われていました。がんばろうと思っただけでも、その言葉を聞く自信がなくなり、そのまま練習が始まってしまいました。練習を本気でやっていたつもりでも、他の団と比べると劣っているように感じました。ですが、女子パートの真剣さを見ていくうちに、少しずつみんなのやる気も高まり、団がまとまっていきました。本番では、今までにないくらい演技をすることができて良かったです。それでも応援の賞をとることができませんでした。青陵は4つの賞をとることができたので、嬉しかったです。この夏、青陵分団でやった分団長は辛く、やめたいと思ったこともあったけれど、今は本当にいい思い出になりました。

玄黄分団長 | 原田 薫 (碧南市立新川中)
今年は例年とは違い、練習時間も短く、応援や競技、2年生の発表など今までとは違う形で行うことになり、うまくできるのかとても不安でした。しかし、玄黄のみんなは練習に積極的に、真剣に取り組んでくれたので、すぐに不安はなくなりました。みんなの仲もとても良く、毎日の練習が楽しくなってきました。約1ヶ月間真面目に、楽しく、練習に取り組んできた成果が出たときには、涙が止まらないほど嬉しかったです。この1ヶ月は僕にとってかけがえのない思い出になりました。自分一人では何もできなかったのを、支えてくれた人、ついてきてくれた仲間へ、本当にありがとう！玄黄最高！